

種名	<u>ベニマシコ</u> <u>Uragus sibiricus</u>													
														
分類	スズメ目アトリ科													
特徴	<p>ピッポ、ピッポとやさしい声で鳴く、長い尾をした赤い小鳥。ユーラシア大陸の東部の主な亜寒帯で繁殖し、日本でも北海道と青森県下北半島で普通に繁殖する。冬期にはほとんどの個体が本州以南へ移動する。</p>													
生活	<p>繁殖期には平地や海岸の低木林、低木の混じった草原、湿原のヘリのやぶなどに棲息する。枝から枝へと飛び移ったり、地上をはね歩いたりしながら餌の昆虫類を探す。つがいで生活し、オスは低木の頂、牧柵、電線などでさえずる。低木の枝の上に、枯れ草、細根などで椀形の巣を作る。産卵期は5～7月、卵数は3～5個である。越冬期には山地から低山地の明るい林のヘリ、伐採跡地、林道沿いのやぶなどに小群で棲息する。川原のヤナギ林など平地に現れることもある。暗い林の中へ入らず、広い草原にも出ない。越冬期の餌は主に植物質で、地上でイネ科、タデ科などの草の実を拾って食べる。</p>													
声	<p>繁殖期には低木にとまって「フィーチリチーチョ、チィチョ」とか「チリチィチョ」などと柔らかな声でさえずる。地鳴きは「クワックワツ」とか「ピッポ」「フィッ、フィッ」などである。また、羽音が「ポロポロポロ」と聞こえる。</p>													
見分け方	オオマシコによく似るが、ベニマシコは2本の白い翼帯が明瞭で、尾は長めで両外側は羽が白い。													
時期	繁殖地	・	・	・	4	5	6	7	8	9	10	・	・	
	越冬地	1	2	3	4	・	・	・	・	・	10	11	12	
その他	全長(L)15cm 翼開長(W)21cm 産卵期は5～7月													
参考文献：山溪カラー名鑑 日本の野鳥														